

小便小僧の恋物語（1995）

MANNEKEN PIS

メディア 映画

ジャンル ロマンس

製作国 ベルギー

色彩 Color

時間 90分

初公開日 1996/07/06

公開情報 ユーロスペース

【解説】

ベルギーの首都、ブリュッセルに市電に乗ってふらりと現れたハリーは孤児院出身。自殺者の出たアパートですぐさま後釜にその部屋に入り、夕食をとった食堂で同僚のいじめに耐え切れずやめた皿洗いを見かけると、即座に就職を決めてしまう。何とも人を食った出だしにとたんに引き込まれてしまう不思議なユーモアを湛えた、これは愛すべき小品である。小便小僧（言わずと知れた、ブリュッセルのシンボルだ）ことハリーは市電の女運転手で彼と同じアパートに住むジャンヌを見初め、彼女もこのスキンヘッドのおかしな青年に次第に魅かれていく。が、むしろ積極的になった彼女に、過去の不幸な事件ゆえ、彼が『愛してる』の一言を口にできないばかりに、二人の恋はもどかしい足踏みを続ける。この両名の中に、戦争未亡人のアパートの管理人を魅力的に介在させるあたりのこまやかさといい、感覚的な美術、音楽も申し分ない。ことに封印された青年の過去が開かれ、悲劇的でありながら幸福感さえもたらす、感情に溢れたラストを迎える後半の、息をもつかせぬ詩的な展開は見事の一言に尽きる。全体的にはJ・V・ドルマルの「トト・ザ・ヒーロー」に似通った印象も受けたのだが、やはり、あれもベルギー映画で、なるほど既視感があって当然か。95年カンヌの国際批評家週間青春賞を受賞。

【クレジット】

監督	フランク・ヴァン・パッセル	Frank Van Passel
製作	ディルク・インペンス	Dirk Impens
	ルディ・ヴェルジック	Rudy Verzyck
脚本	クリストフ・ディリックス	Christophe Dirickx
撮影	ヤン・ヴァンカイリ	Jan Vancaillie
音楽	ノートルカープ	Noordkaap
出演	フランク・ヴェルクライセン	Frank Vercruyssen
	アンチュ・ドゥ・ブック	Antje de Boeck
	アン・ペーテルセン	Ann Petersen
	ヴィム・オブブルック	Wim Opbrouck
	スタニー・クレツ	Stanny Crets